

## 第4回千葉吃音交流会

日時：2017年7月30日(日) 13:30～16:30

場所：千葉市コミュニティセンター5階 講習室

参加者： 39名

- ・吃音者本人（中学生1名、高校生2名、若者7名）10名
- ・保護者9名
- ・その他5名
- ・スタッフ（言語聴覚士・言友会会員・「ことばの教室」関係者その他）15名

<内容>総合司会：佐藤一郎衛 初めの挨拶：松尾久憲 13:30～

1) 当時者の体験談：清水裕治さん（千葉言友会） 司会：鈴木勉

大学時代のインターンシップや居酒屋でのアルバイトの体験、吃音を気にしない生活をしたいという思いから、吃音を前面に出した「どもり系アーティスト」としての音楽活動、さらに障害児放課後デイサービスの仕事のこと等を分かりやすく話された。その時々周囲の人から言われたことや自分の考えも述べていて、共感する部分も多かった。インターンシップ時代に社長から「君は人間じゃない」という旨の言葉を掛けられたという経験と居酒屋の店長から掛けられた「どもっている話し方は君の個性だからそのままよいのではないか」という旨の言葉を掛けられた話があったが、対照的な言葉であり印象に残った人も多かったと思う。また、アルバイト時代に高齢のお客さんからレジ対応で時間がかかっていた際に「早くしろ、はっきり話せ」と言われたという経験は、当事者なら経験したことがある人は多いのではないかと思った。

2) グループ毎の話し合い

中高生グループ、若者グループ、保護者グループに分かれて実施した。

### ■中高生グループ

中高生3名の他に高校教諭、養護教員、ことばの教室担当教諭、STの参加もあり、中高生の吃音当事者への対応や周囲の子どもへの対応、学校としてどう対応していくか等話し合われた。

### ■若者グループ

若者3名、言語聴覚士、ことばの教室教諭にスタッフ4名が参加し、就職や就職してから職場などでの”合理的配慮“とはどういうことか、吃音に対してどう行動を起こしたか、また”恋愛と吃音“など、若者らしいテーマで話しあった。

### ■保護者グループ

吃音がある子どもをもつ保護者の他に保健師の参加もあった。思春期は子ども自身がどうしたいかを尊重することが必要、STの訓練は意味があるのか、環境調整について、ことばの教室は小学校まででありそれ以降の居場所、青年期の居場所はあるのか等が話題にあがった。

<アンケートから>

- ・(10代) 吃音を隠せず話せました。物凄く良い体験でした。
- ・(20代) 自分と似たような人がいて安心しました。初めて参加したのですが、とても有意義な時間を過ごせました。
- ・(保護者) ひとりで悩まないことが大事だとよくわかりました。

交流会の終わりには、参加者同士で話していたり連絡先を交換していたりと繋がりもできていた。初参加も多かったが、リピーターも一定数参加があり盛会となった。

次回第5回の開催は11月ごろを予定している。

以上